

Atonement

アトメント

知っておきたいキリスト教のことば (105)

贖罪 しょくざい

「贖罪」とはその字のとおり、「罪を贖う」ということです。聖書の創世記には、アダムとエバの物語があります。最初の間でであったアダムとその妻エバは、エデンの園で何不自由なく過ごしていました。ところがある日、蛇にそそのかされて神さまに食べてはならないと命じられていた実を食べてしまいます。その実は「善悪の知識の木」になった実で、その実を食べたことにより彼らは、自分たちが裸であることに気づき、神さまの目を避けてしまうのです。

その罪により神さまは人間をエデンの園から追放され、人間は死に引き渡されてしまいます。人間は何とか死の鎖から解放されたいと願いますが、自分の力で成し得ることはできず、また律法に定められた犠牲をささげても、罪から逃れることはできませんでした。つまり神さまと人間の間には、深い溝ができていたのです。(14行)

そのことを良しとされない神さまは、独り子であるイエス様を世に遣わすことによって、罪びとを贖い、人間と和解しようとされます。罪のないイエス様をすべての罪びとのために死に引き渡すことによって、この贖いは完成するのです。

つまりイエス・キリストの十字架での死は、神さまと罪びととの間の関係を再建し、救いをもたらしたというわけです。

わたしたちは普段生活している中で、イライラしたり、人の悪口を言ったり、傷つけてしまうことはないでしょうか。逆に周りの人から嫌な思いをさせられることもあるでしょう。人間の心にある「悪い思い」に、わたし自身も日々気づかされます。

しかし神さまは、わたしたちをそのままの姿で受け入れて下さるのです。罪深いままで、罪を贖うためにイエス様を与えて下さった。それがイエス様の十字架なのです。

次回は「しるし」です。お楽しみに。



「他の2人の罪人と共に十字架に磔となったイエス」

ギュスターヴ・ドレ

(1832～1883年)

人は皆、罪を犯して神の栄光を受けられなくなっていますが、ただキリスト・イエスによる贖いの業を通して、神の恵みにより無償で義とされるのです。

(ローマの信徒への手紙 3章 23～24節)

